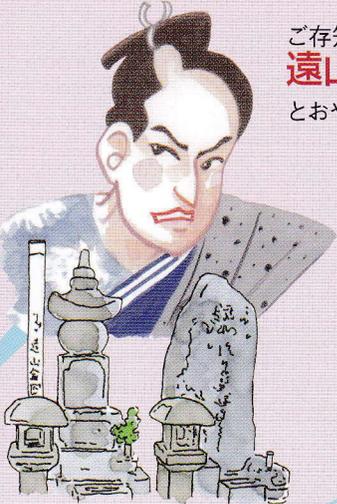


ご存知、桜吹雪の金さん
遠山金四郎景元

とおやま きんしろうかげもと
(1793~1855)

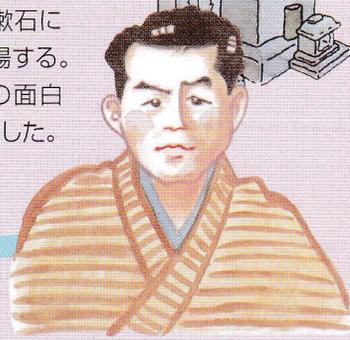
江戸時代の旗本。江戸町奉行を勤めた。小説・ドラマの『遠山の金さん』などでその名を知られる。



「生」に苦悩した理知派
芥川龍之介

あくたがわ りゅうのすけ
(1892~1927)

東京帝国大学(現東京大学)在学中、『新思潮』に発表した『鼻』が夏目漱石に激賞され文壇に登場する。谷崎とは「小説の面白さ」について論争した。



美意識の深淵を抱く
谷崎潤一郎

たにざき じゅんいちろう (1886~1965)

東京帝国大学(現東京大学)在学中、『新思潮』に発表した『刺青(しせい)』が永井荷風に激賞され文壇に登場する。官能的・耽美的な作風で知られる。

重商主義経済を推進

田沼意次 たぬま おきつぐ

(1719~1788)

第十代将軍徳川家治に寵愛され、家禄六百石から、五万七千石の相良(さがら)藩大名になり、「田沼時代」といわれる全盛期を成した。



しょうりんじ
勝林寺

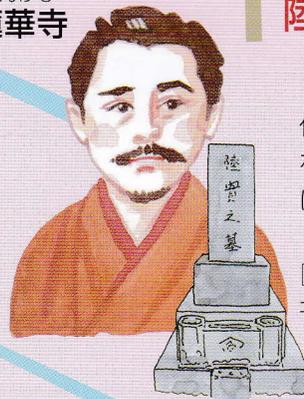
気骨ある明治新聞人

陸羯南 くが かつなん (1857~1907)

1種イ8号10側

1889年、新聞『日本』を創刊。民族文化の再発見、再生を論じた。正岡子規を社員として短歌、俳句の革新運動に尽力。この俳句革新運動が雑誌『ホトトギス』を生んだ。週刊誌の『団圓珍聞(まるまるちんぶん)』を発売した5野村文夫(のむらふみお)も。

れんげじ
蓮華寺



せんしゅういん
● **専修院**

園芸の地の駒込・染井を代表する江戸時代の植木屋、伊藤伊兵衛(いとういへい)家の居宅跡。(四代目政武の墓は駒込六丁目の西福寺にある。)

日本美術の先覚者

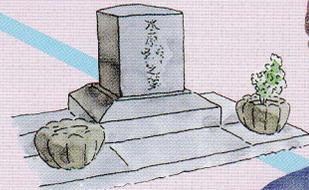
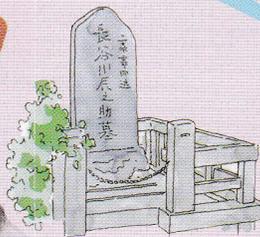
岡倉天心 おかくら てんしん
(1863~1913) 1種イ4号14側

東京美術学校(現東京藝術大学)設立の起動者となり、29歳で第二代校長。辞職後、日本美術院創設、横山大観らを育てる。後にボストン美術館の中国・日本美術部長。東京美術学校初代校長の6浜尾新(はまおあらた)、天心と演劇改良運動を共にした元・早稲田大学総長の1高田早苗(たかださなえ)もここに。



言文一致の先導者
二葉亭四迷

ふたばてい しめい (1864~1909) 1種イ5号37側
本名、長谷川辰之助。筆名は、文学に志すことを嫌った父から「くたばってしめえ」と怒鳴られたことに由来するという。小説『浮雲(うきぐも)』で写実文学、言文一致の文体を先導した。同じく言文一致の小説家・3山田美妙(やまだびみょう)もここに。

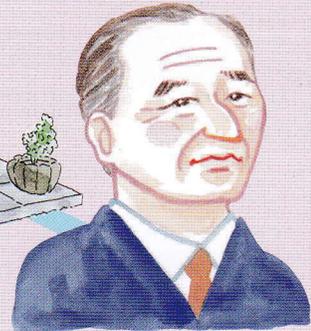


「主観」の尊重
水原秋桜子

みずはら しゅうおうし (1892~1981)

1種イ3号1側

本名・水原豊。高浜虚子に師事し、俳句雑誌『ホトトギス』に参加。「ホトトギスの四S」と称されたが、やがて虚子の「客観写生」に対して「主観」を唱えて対立し、俳句雑誌『馬酔木(あしび)』を主宰した。『ホトトギス』で活躍した4阪本四方太(さかもとしほうだ)がここに。



『浮城物語』に描かれた二十一人の墓。1874~1940) までの墓も。



じげんじ
● **慈眼寺**

蘭学者で画家の司馬江漢(しばこうかん・1747~1818)も眠る。

至駒込駅

駒込・染井の地

江戸時代の切絵図で見ると「比辺染井村、植木屋多シ」と書き込まれています。名花「ソメイヨシノ」を生み出した土地であり、ツツジや菊づくりを広めた園芸家たちの集まる場所でした。

駒込駅前を南北に通る本郷通りは、日光街道に続き、将軍の日光参詣の行列の通る街道でした。現在、通り沿いには六義園(りくぎえん)、バラと洋風建築が美しい旧古河庭園(きこうふるかわていえん)、お花見で有名な飛鳥山(あすかやま)がつづく緑豊かな地域です。

染井霊園 MAP



染井霊園

播州林田藩(兵庫県)建部(たけべ)家の抱屋敷跡地で広さは約6万8千㎡です。僧侶の山田文應(やまだぶんおう)の努力で共同埋葬墓地として開かれ、明治7年(1874)9月1日、東京府が引き継いで開設しました。幕末から明治にかけて活躍した大名や活動家、学者らが多く眠るところです。現在の地番は、駒込五丁目5番。駒込駅、巣鴨駅いずれも近くです。



駒込のソメイヨシノ

豊島区 観光案内



旧丹羽家の蔵

巢鴨御薬園跡 すがもおやくえんあと

霊園の西にある東京都中央卸売市場豊島市場は、かつて「巢鴨御薬園」でした。寛政10年(1798)ごろに薬用植物の栽培地となり、綿羊を飼い、ラシャ織りを試作して、「綿羊屋敷」とも呼ばれました。



旧中山道

本郷追分で岩槻街道と分かれ、巢鴨駅を通る江戸五街道の一つです。江戸六地蔵の眞性寺、とげぬき地蔵の高岩寺門前を通ります。はじめは「中仙道」と書きましたが、正徳6年(1716)から「中山道」に統一されました。



「番地入新大東京市三十五区分図之内 豊島区詳細図」(部分 1933年発行)
 (豊島区立郷土資料館編集「豊島区地域地図 第1集」(1987年発行)所収のものを使用)

発行: 豊島区文化観光課
 東京都豊島区東池袋1-18-1
 TEL: 03-3981-1316 FAX: 03-3981-3069
 E-mail: A0014503@city.toshima.lg.jp
 執筆: 伊藤榮洪(豊島区図書館専門研究員、元区史編集委員)
 イラスト: 矢口由美子(デザイン室あとりえ)
 霊園問合せ: 染井霊園管理所 TEL 03-3918-3502
 2010年1月発行(初版) 2014年3月発行(第4版)
 発行部数: 累計9万部(第4版発行部数: 3万部)
 豊島区観光案内ホームページ
http://www.city.toshima.lg.jp/bunka_kankou/

左の地図は昭和7年10月1日
 豊島区発足直後のもの。右の現在の
 地図と見くらべてください。



染井霊園に眠る著名人の墓

氏名	墓石の位置	歿年月日	事績
齋庭篁村	2種ハ8号16側	大正11.6.20(68才)	作家。江戸時代から明治への過渡期に、橋渡しの役割をした。
淡島寒月	1種イ8号10側	大正15.2.23(68才)	元禄期の文学井原西鶴を紹介した。
石川倉次	1種ロ13号4側	昭和19.12.23(86才)	日本点字の創始者である。
石川一郎	1種イ10号4側	昭和45.1.20(84才)	化学工業界の第一人者。日本経済団体連合会長になった。
伊藤道郎	1種イ4号2側	昭和36.11.6(69才)	三浦環に音楽を学んだが、アメリカで舞踊家として活躍した。
井上範	1種イ12号2側	昭和7.6.24(56才)	若松港および神戸港を築くことに功績があった。
巖本善治	1種イ4号13側	昭和17.10.6(79才)	明治20年明治女学校教頭、同25年校長に就任した。
巖本真理	1種イ4号13側	昭和54.5.11(53才)	ゾライオロンを学び、早くから独奏者として活躍した。
海野勝珉	1種イ6号1側	大正4.10.6(72才)	彫金界の第一人者であった。
大田黒元雄	1種イ4号4側	昭和54.1.23(86才)	日本の楽壇における評論活動の先駆者であった。
岡倉天心	1種イ4号14側	大正2.9.2(52才)	日本文化を世界へ紹介した。
奥宮健之	1種イ12号2側	明治44.1.24(55才)	大逆事件で死刑となった。旧自由党員であった。

氏名	墓石の位置	歿年月日	事績
高田早苗	1種イ3号23側	昭和13.12.3(79才)	大隈内閣の文相に就任。早稲田大学総長を勤めた。
高嶺秀夫	1種イ3号7側	明治43.2.22(57才)	東京師範学校校長になる。教育法の革新をはかった。
高村光雲 光太郎・智恵子	1種ロ6号1側	光雲-昭和9(88才) 光太郎-昭和31(73才)	光雲-彫刻家。光太郎-詩集「道程」「智恵子抄」などがある。
高安月郊	1種イ10号1側	昭和19.2.26(79才)	戯曲作家。代表作に「江戸城明渡」「桜時雨」がある。
多田北鳥	1種イ1号20側	昭和23.1.1(58才)	戦後における講談社のさし絵画家であった。
田村直臣	1種ロ10号7側	昭和9.1.7(79才)	苦学生のために「自営館」を開いた。
坪井誠軒	1種イ8号6側	嘉永1(1848) 11.8(54才)	蘭方医学の先覚者。門人は緒方洪庵など多数いた。
坪井信良	1種イ8号6側	明治37.11.9(82才)	坪井誠軒の養子。元治1(1864)年將軍興医師になった。
坪井正五郎	1種イ8号6側	大正2.5.26(51才)	人類学に業績を残し、コロポックル説をとねえた。
寺本義久	1種イ3号5側	明治9.10.30(30才)	警視庁警部補。明治9年10月の思案橋事件で殉職3号となった。
藤堂高猷	1種ロ4号 8~12側	明治28.2.9(80才)	伊勢津藩主。備考-総高500cm
長瀬富郎	1種イ5号36側	明治44.10.26(48才)	明治時代の実業家。花王石けんの創業者となった。
長田秀雄	1種イ8号5側	昭和24.5.5(64才)	小山内薫らの新劇運動に入り、史劇を発表した。
野村文夫	1種イ5号35側	明治24.10.26(56才)	『団田参問』を創刊し、週刊誌発行の草分けとなった。
萩野由之	2種ハ、6号3側 (区道沿い、大神宮墓地内)	大正13.2.2(65才)	従来のを和歌-桂園派を攻撃し、和歌の改良をめざした。
波多野精一	1種イ6号6側	昭和25.1.17(73才)	哲学者。ギリシャ哲学の原典研究の道をはらいた。
浜尾新	1種イ4号1側	大正14.9.25(77才)	明治26年東京帝国大学総長。大正13年枢密院議長になった。

小河 一敏	1種ロ1号4側	明治19.1.30(74才)	尊王攘夷激派の志士。「王政復古義挙録」を残した
梶田 半古	1種イ4号2側	大正6.4.23(48才)	日本画家。代表作に「春宵忽」[秋]がある。
北田 薄氷	1種イ4号2側	明治33.11.5(25才)	作家、処女作に「三人やもめ」がある。梶田半古の妻であった
勝沼 精蔵	1種イ4号19側	昭和38.11.10(78才)	内科医学者。血液学では国際血液学会会長も勤めた。
樺山 資紀	1種イ3号12側	大正11.2.8(86才)	海軍大将。台湾総督になった。
川田 小一郎	1種イ4号17の2側	明治29.11.7(61才)	三菱の発展に力をつくした。明治22年日本銀行総裁となった。
陸 羯南	1種イ8号10側	明治40.9.2(51才)	新聞「日本」を創刊し、官僚・藩閥を常に攻撃した。
熊谷 直彦	1種ロ6号4側	大正2.3.8(86才)	明治17年絵画展覧会に優賞、同37年帝室技芸員となった。
高 良齋	1種イ3号1側	弘化3(1846)9.13(48才)	幕末の眼科医。シーボルトについて学んだ。
五島 美代子	1種イ8号3側	昭和53.4.15(79才)	歌人。歌集に「暖流」「丘の上」などがある。
阪本 四方太	1種ロ13号4側	大正6.5.10(45才)	俳誌「ホトギス」で活躍した。
笹川 臨風	1種ロ10号7側	昭和24.4.13(80才)	新しい俳句誕生に貢献した。美術史の研究と評論も行った。
幣原 喜重郎	1種イ4号20側	昭和26.3.10(79才)	昭和初期に協調外交を行い、戦後首相として新憲法を制定した。
下岡 蓮杖	1種ロ6号5側	大正3.3.3(92才)	日本における営業写真館を最初に開いた。
下條 康磨	1種ロ2号4側	昭和41.4.25(81才)	政治家・統計学者、吉田内閣の文相を勤めた。
下瀬 雅允	1種イ12号2側	明治44.9.6(53才)	下瀬火薬を発明した。日露戦争でこの火薬が威力を発揮した。
末弘 巖太郎	1種イ8号4側	昭和26.9.11(63才)	日本における労働法学の開拓者であった。
杉 亨二	1種イ6号11側	大正6.12.4(89才)	統計学者。日本最初の近代的な人口調査を実施した。
関根 正直	1種イ4号14側	昭和7.5.26(73才)	国文学者。「古事類苑」の編さんに参画した。

浜尾 四郎	1種イ4号1側	昭和10.10.29(40才)	浜尾新の息子。多くは探偵小説を書いた。
土方 久元	1種ロ6号12側	大正7.11.4(86才)	明治維新の功労者。薩長連合の運動につとめた。
土方 与志	1種ロ6号12側	昭和34.6.4(59才)	小山内薫とともに築地小劇場を建設した。演出家。
平田 鏡胤	2種ハ6号 ³⁹ 側 ⁴⁴	明治13.10.25(82才)	国学者。明治2年に天皇の侍講になった。
福岡 孝弟	1種イ8号3側	大正8.3.7(85才)	五箇条御誓文の草案起草した。
福田 英子	1種イ4号11側	昭和2.5.2(63才)	日本における婦人解放運動家、自叙伝「妾の半生涯」がある。
藤岡 作太郎	1種イ11号3側	明治43.2.3(40才)	近代的国文学の礎を作った。
二葉亭 四迷	1種イ5号37側	明治42.5.10(46才)	小説家。言文一致体を主張し、「浮雲」を著した。
松浦 武四郎	1種ロ10号2側	明治21.2.10(71才)	明治政府のもとで、「北海道」の名付け親となった。
三上 参次	1種イ13号1側	昭和14.6.7(75才)	歴史学者。国文学史の開拓者としての功績も大きい。
水原 秋桜子	1種イ3号1側	昭和56.7.17(88才)	俳人、俳誌「ホトギス」で活躍し、のち「鳥群本」を主宰した。
宮武 外骨	1種イ3号21側	昭和30.7.28(90才)	個人雑誌のばじまりをつくる。「頓智協会雑誌」で不敬罪になった。
山田 文應	1種イ2号3側	明治32.5.21(70才)	染井霊園の開設の祖、僧侶
山田 美妙	1種ロ10号9側	明治43.10.24(43才)	言文一致の文学を主張して「武蔵野」を発表した。
安岡 正篤	1種ロ6号14側	昭和58.12.13(86才)	東洋哲学者。金澤学院日本農学校を創立。全国師友協会会長
結城 素明	1種ロ6号12側	昭和32.3.24(82才)	日本画家。自然主義をとどめた。
ローゼンカ・ワリツク	外人 墓地	大正3.4.30(57才)	アメリカの宣教師。ハンセン病患者や、日露戦争の負傷兵の看護にあたり、「東洋のナイチンゲール」と呼ばれた。
若槻 礼次郎	1種イ8号1側	昭和24.11.20(84才)	大正末期から昭和初期の政治家。首相、民政党総裁を勤めた。
若松 賤子	1種イ4号13側	明治29.2.10(31才)	作家。翻訳の作品にすぐれていた。巖本善治の妻であった。

作成にあたって参考とした資料

豊島区教育委員会発行の「豊島区の霊園・寺院を訪ねて」内の表

発行：公益財団法人東京都公園協会 田29.2
再生紙を使用しています。